



行政職での研究論文作成

☆推薦文☆

筆者(高田宏宗先生:大阪34期卒)は、新型コロナウイルスパンデミック(第一波)の時期に大阪府で緊急実施された医療者対象のアンケート調査結果を、このたび論文として世界に報告しました。行政主導の調査を「エビデンスとしてアウトプットできた」というのは大変重要なことだと思います。今回の論文では、医療者のメンタルヘルス支援のあり方を提案しています。メンタルヘルスの維持には、専門家へのアクセスを充実させるよりもむしろ、身近な人たち(家族・職場の同僚)からの支援が大事です。この当たり前と思える事実をアンケート調査結果が示唆していました。行政主導の政策は、科学的根拠に基づいて考案されるべきです。今回の論文のように、アンケート調査結果を科学的に分析・考察し、適切にアウトプットしてゆくことが、「思いつき」で考案される数々の政策(愚策)を予防することにつながると、私は信じています。

地域医療学センター公衆衛生学部門 阿江竜介

しろばとクリニック 高田 宏宗 (大阪府 34期卒業)

CRSTの阿江竜介先生、自治医科大学保健センターの小川真規先生に多大なご助言・ご支援をいただき、この度、Occupational Medicine誌に、Depression prevention among healthcare workers during the COVID-19 pandemic が採択されました。この場を借りてお礼申し上げます。

この調査実施、論文作成まで、何度も挫けそうになりました。それでも論文という形で世に残せたのは、支援して下さった先生方のおかげです。

COVID-19の流行が始まった頃、私は義務年限で、精神保健の行政施設で勤務しておりました。日本を含め、世界中でCOVID-19に対応する職員の精神的負担が叫ばれるようになりました。行政職として、何かできることはないかと思いましたが、未知の事態であるがゆえに、何が正しい対応なのか誰もわからずにいました。そこで、まずは手当たり次第に感染症流行時の精神保健に関する論文を探しました。すると、中国をはじめ世界中からたくさんの論文がすでに出ている一方で、日本からの報告はほぼ皆無でした。医療機関はCOVID-19の対応で混迷を極めており(当時は第一波でした)、職員の精神的ケアまで手が回らないため、行政こそがその役割を担って社会に貢献できるのではないかと考えました。COVID-19にかかわる医療従事者の、1) 精神状態の程度、2) そのリスク、改善策は何か、について調べることができれば行政施策の参考になるだろうと考えました。税金をかけて行う調査になるので、後にエビデンスとして世に残せる形が好ましいと考えました。しかし、このような調査は私自身は未経験でどうしたらよいかわからず、職場にも相談できる人もおらず、CRSTに支援の相談することに思い至りました。実は、この段階では「思いつきの域を出ておらず、支援のしようがない」と断られてしまいました。私の相談の仕方が悪かったのでしょうか。気を取り直して、論文を読み漁り、具体的な提案をしてみたところ、CRST事務局の亀崎先生を介して阿江先生を紹介いただき「支援でき



ます」とのご回答をいただきました。

アンケート調査の経験豊富な先生から指導していただき、大変勉強になりました。行政でもこれまでにアンケート調査は行っていましたが、論文作成を目指すときには、作り方が全く異なるものだと感じました。調査の意義、方法などについて会議で提案したところ、「個人情報だから取得してはいけない」「研究は研究者のエゴだから、それで医療者に負担をかけてはいけない」「結果を外部に出してはいけない」様々な反対意見が出ました。あまりに反発されるので、まずここでくじけそうになりました。ここでも阿江先生に助言をいただくことができ、精神的にも支えてくださいました。行政と連携した研究の経験をお持ちだったので、的確なアドバイスをもらうことができました。当初の調査内容から変更を余儀なくされましたが、完全な骨抜き調査になることはなんとか避けることができました。調査後のデータ解析、論文作成、投稿先の選定、投稿、修正、あらゆる面で手厚い支援をしてくださいました。知識のみならず、精神面でも大いに励まされ、調査実施、論文作成までいたることができました。感謝のきもちでいっぱいです。自治医大らしい情熱のこもった支援をしてくださり、本当にありがとうございました。

行政では論文に残せそうな仕事はしばしばあるものの、行政職が論文を書く風潮がないため、その自治体の資料で終わってしまうことが多々あります。行政職は自治医大の義務年限では少数派だと思いますが、もし、同じような境遇の卒業生がいるなら、ぜひCRSTに相談されることをおすすめします。

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7476/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<https://grad.jichi.ac.jp/>